

CASBEE広島における重点項目の環境配慮設計概要

※下表の空欄に環境配慮設計の概要をコメントしてください。

欄に数値またはコメントを記入

配慮項目	評価点	重み係数	内 訳			
■1.「地球温暖化対策」の推進						
1.1 建物の熱負荷抑制						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	0.0	0.00	Q1 室内環境	2 温熱環境	2.1 室温制御	2 外皮性能
	0.0	0.00	LR1 エネルギー	1 建物外皮の熱負荷抑制		
小計	0.0	0.00				
1.2 自然エネルギーの利用						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.0	1.00	LR1 エネルギー	2 自然エネルギー利用		
小計	3.0	0.09				
1.3 設備システムの高効率化						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□	3.0	1.00	LR1 エネルギー	3 設備システムの高効率化		
小計	3.0	0.45				
1.4 設備システムの効率的運用						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	0.0	0.00	LR1 エネルギー	4 効率的運用	集合住宅以外の評価	4.1 モニタリング
	0.0	0.00	LR1 エネルギー	4 効率的運用	集合住宅以外の評価	4.2 運用管理体制
	3.0	0.00	LR1 エネルギー	4 効率的運用	集合住宅の評価	4.1 モニタリング
	3.0	0.00	LR1 エネルギー	4 効率的運用	集合住宅の評価	4.2 運用管理体制
小計	0.0	0.00				
1.5 資源・マテリアル対策						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。□	3.0	0.10	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.1 節水	
躯体と仕上材の分別を可能とし、設備の錯綜をさせないような計画としている。また、化学物質排出把握管理促進法の対象物質を含む建材は使用しない。	3.0	0.11	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水等の利用	1 雨水利用システム導入の有無
	3.0	0.05	LR2 資源・マテリアル	1 水資源保護	1.2 雨水利用・雑排水等の利用	2 雑排水等利用システム導入の有無
	3.0	0.08	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.1 材料使用量の削減	
	3.0	0.17	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.2 既存建築躯体等の継続使用	
	3.0	0.17	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	
	1.0	0.17	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
	0.0	0.00	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.5 持続可能な森林から産出された木材	
	5.0	0.17	LR2 資源・マテリアル	2 非再生性資源の使用量削減	2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	
小計	3.0	0.32				
1.6 ライフサイクルCO2排出率						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください	3.4	1.00	LR3 敷地外環境	1 地球温暖化への配慮		
ライフサイクルCO2排出量を一般的な建築物と同等とする						
小計	3.4	0.14				
1.「地球温暖化対策」の推進の評価	3.1	0.56				
■2.「ヒートアイランド対策」の推進						
2.1 温熱環境の向上						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	1.0	0.53	Q3 室外環境(敷地内)	1 生物環境の保全と創出		
	2.0	0.26	Q3 室外環境(敷地内)	3 地域性・アメニティへの配慮	3.2 敷地内温熱環境の向上	
	3.0	0.21	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.2 温熱環境悪化の改善	
小計	1.7	0.97				
2.2 交通負荷抑制						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	5.0	1.00	LR3 敷地外環境	2 地域環境への配慮	2.3 地域インフラへの負荷抑制	3 交通負荷抑制
社員用駐車場・駐輪場を確保し周囲への交通負荷抑制をおこなう						
小計	5.0	0.03				
2.「ヒートアイランド対策」の推進の評価	1.8	0.25				
■3.「長寿命化対策」の推進						
3.1 耐用性の向上						
(コメント) ※配慮事項を簡潔に記載してください。	3.0	0.50	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 耐震・免震・制震・制振	1 耐震性(建物のこわれにくさ)
高耐用年数の部材を使用することにより、建物の耐用年数の向上を図るものとする	3.0	0.13	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.1 耐震・免震・制震・制振	2 免震・制震・制振性能
	3.0	0.08	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	1 躯体材料の耐用年数
	2.0	0.08	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	2 外壁仕上げ材の補修必要間隔
	5.0	0.04	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔
	5.0	0.04	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	4 空調換気ダクトの更新必要間隔
	5.0	0.08	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	5 空調・給排水配管の更新必要間隔
	3.0	0.08	Q2 サービス性能	2 耐用性・信頼性	2.2 部品・部材の耐用年数	6 主要設備機器の更新必要間隔
	小計	3.2	0.67			
3.2 設備の更新性						
(コメント) ※設計の計画に特段に配慮した事項を記載してください。	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	1 空調配管の更新性
構造部材をいためることなく修繕・更新ができるようにする	4.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	2 給排水管の更新性
	3.0	0.10	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	3 電気配線の更新性
	3.0	0.10	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	4 通信配線の更新性
	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	5 設備機器の更新性
	3.0	0.20	Q2 サービス性能	3 対応性・更新性	3.3 設備の更新性	6 バックアップスペースの確保
	小計	3.2	0.33			
3.「長寿命化対策」の推進の評価	3.2	0.19				
■重点項目の総平均(上記3項目)	2.8					